

## 今めどいすべき県域統合・広域合併〜後編〜

JAGグループ徳島が、今、なぜ県域統合・広域合併をしようとしているのか、目指すものは何なのかをシリーズで説明します。

今回は、県域統合・広域合併について日頃より皆様からいただいたご意見・ご質問についてお答えいたします。

Q1

県域統合・広域合併の狙いは、組織を維持させることではないのか

A1

組織を維持するために合併するという側面は、県域統合・広域合併の狙いの一つです。

Q2

ほかどのような狙いがあるのか

A2

信用・共済事業の効率的運営を行い、経済事業に注力できる体制を構築することを目的としています。

A3

小規模農家の多い中山間地についても現在と同様にサービスを提供します。

Q3

県域統合・広域合併により中山間地のサービスが低下するのではないのか

ただし、経済事業の効率化のために、海外体制強化にあわせて購買店舗体制を見直すことはあります。

まとめ

本県農業は、農業所得の減少や農家の後継者・担い手不足、高齢化の進行などの問題を抱えている。また、日銀のマイナス金利政策による信用事業収益の低下やEUC・EPAなどグローバル化の進展により、さらなる影響を受けることが考えられます。これら乗り越え、また、若い世代が農業に夢を持って取り組めるように、「もうける農業」の実現、担い手サポートの充実・組合員目線に立ったサービスの充実を今以上に図っていかなくてはなりません。

将来にわたって「組合員の所得向上」「地域農業の振興」というJA本来の目的を果たしていただく「責任ある組織」を作っていくためにも、県域統合・広域合併の実現を成し遂げなければならぬと強く考えており、これにより本県農業の抱える課題解決につながることを確信しています。

## 食農教育体験 ~米の収穫編~

JAグループ徳島では、種をまいて、作物を育て収穫し、食べるという過程から農業を知ってもらい、食を支えている農業に感謝の気持ちと理解をもってもらおう取り組みとして、食農教育を行っています。



市場小学校5年生

JA市場町は9月6日(水)、市場小学校の小学5年生を対象に、5月下旬に田植えした米の収穫体験を行いました。天候は曇りでしたが、約1時間かけて稲を刈り、児童は汗びっしょりになっていました。今年は、親子で餅つき体験も予定しており、待ちきれない様子でした。



土成小学校5年生

JA板野郡は8月25日(金)、土成小学校の小学5年生を対象に、4月下旬に田植えした米の収穫体験を行いました。鎌を持つのが初めてという児童も多いようでしたが、県内の最高気温が35℃を超える炎天下の中でも、生き生きとした表情で稲刈りをしていました。

たくさんのご応募ありがとうございました。  
すだちプレゼントキャンペーンへのご応募ありがとうございました。ご当選者様には、順次賞品を発送いたします。しばらくお待ちください。第3回プレゼントキャンペーンを企画中です。で、ぞうご期待!!

## 「木頭ゆず」がGI登録 県内初の認定

9月15日(金)、那賀町で栽培する「木頭ゆず」が国の地理的表示(GI)保護制度に登録されました。「木頭ゆず」は、半世紀にわたる選抜で果汁が多く、香りが良いのが特徴で、同制度では県内初の認定となります。



地理的表示(GI)保護制度とは 「〇〇牛」「〇〇りんご」など、全国各地には、地域で育まれた名産や名物、特産などといわれる農林水産物・食品が数多くあり、国内外の消費者に受け入れられています。この農林水産物・食品などの「地域ブランド」を守るための制度が「地理的表示保護制度」であり、これに登録されたものは「GIマーク」を貼って販売でき、高品質をアピールできます。海外への輸出版売など、グローバル化が進む中、GIやHACCP、GAP認証は「輸出」を行うための必要不可欠な「資格」であり、今後、国内取引でも大きく扱われると予測されます。

※政府広報オンラインより一部引用

## JA徳島北の特産品 シャキシャキ・ホクホクの食感 「れんこん」

徳島産れんこんは、ツヤツヤとした光沢と白さが美しく、多様な食味を味わえる野菜です。和・洋・中、さまざまな料理にお使いいただき、歯ごたえや香りを楽しんでください。

JA徳島北 代表理事組合長 美崎 健二

